学校番号	３０２８

令和８年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「新．高校生の美術１」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・形態や色彩、材料や光などの造形の要素の働きについて知り、親しみ、自分の感じ方でイメージや情景を表現していきましょう。
・形態や色彩の適切な捉え方や、材料や素材の扱い方、使用方法を学びながら自己の表現力の向上を目指す学習活動を行います。
・作品途中や完成後に振り返りや相互評価を行い、作品に対する造形的な視点や相互理解を深める学習活動を行います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
　造形的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図と創意工夫、生活や社会を心豊かにする造形や美術の働きなどについて考え、主題を生成し、主題を基に新しいものをつくり出すという観点に立って発想し構想を練ったりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
　主体的に美術の創造活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	形や色彩、材料や光などの造形の要素の働きや造形的な特徴を捉えて主題に沿った表現をしている。 また、材料や用具の特性を生かして表現方法を工夫している。	造形的な見方、考え方を働かせて感じたことや考えたことから主題を生成し、創造的に表現している。また他者の作品の良さを造形的な視点から理解し自身の作品への客観的視点が養えている。	主体的に造形的な資質・能力を発揮しよう、身に着けようと創意工夫して実現しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	美術とは何か	人物クロッキー 生徒相互がモデルになってクロッキーをする。人物の骨格、重心、バランス、動勢などに注意する。毎授業開始時に行う。	a:骨格、比率などを捉えて描いている。	クロッキー帳		
	点描画	【表現】 ・色彩の基礎知識を学習 1.構想を練る 課題の条件を理解し、色彩効果を生かした配色計画を考え、配置を考えて構図を工夫する。 2.制作 撮影した写真をもとに点描の制作。	a: 材料の特性を生かし丁寧に点が打てている。 b:条件や美しさなどから主題を生成し、形や色彩など造形の要素の働きを考えて配色計画・構図を練っている。 c: 形や色彩など造形の要素の働きを理解し、創意工夫して表現に生かそうとしている。	提出作品	ワークシート 提出作品	取り組み状況 振り返りシート
	模様の構成 ―季節の模様のデザイン	【表現】【デザイン】 ・日本や諸外国の文様を鑑賞し、表現の工夫や生活との関わりを感じ取り、色や形を考えてデザインする。。 1.構想を練る オリジナルの連続模様デザインをアイデアスケッチする。 2.主題の設定 設定にふさわしいイメージを考え、デザインの構想を練る。 3.制作 デザインされた図案をもとに切り絵を制作する。 【鑑賞】 ・2 人一組となりお互いの作品を鑑賞し、他者の作品に対しタイトルをつける。	a:模様をつくる際の対称性の働きを考えながら、主題に合わせて表現方法を創意工夫している。材料や用具を生かす技能を働かせ丁寧に作品をつくっている。 b:模様の持つ生活を心豊かにする働きと線から生まれる形や全体の感じといったイメージから造形的な見方、考え方を働かせて主題を生成している。 c: 造形の要素の働きを理解し、主題に沿った表現を創意工夫して実現しようとしている。 【鑑賞】 b:作者の表現の意図、創意工夫、作品のよさや美しさなどを感じ取ろうとしている。	ワークシート 提出作品	ワークシート 提出作品 ワークシート	取り組み状況 取り組み状況 ワークシート 提出作品 振り返りシート

	鉛筆デッサン	【表現】【絵画･彫刻】 絵画表現の導入として形のとらえ方、陰影による立体感の表現などを、鉛筆ねり消しを使って学習する。 ･比率で捉える ･面で捉える ･光源の方向と陰影表現 ･質感表現	a: 形を比率や面の向き、陰影などの要素から捉えることを理解し、表現している。	ワークシート		
後期	身近なものを描く	【表現】【絵画･彫刻】 ･「具象絵画」 アクリル絵の具を使って、具象表現に取り組む ･アクリル絵の具の使い方 ･アクリル絵の具の重ねて塗ることができる性質を生かし、自分の表現を追求する 【鑑賞】 相互鑑賞 制作途中にグループに分かれお互いの作品にコメントを送る。	a：形や色彩、陰影による効果と対象の造形的特徴を捉えて主題に沿った表現が行えている。 a:アクリル絵の具、筆など材料の特性を生かして表現方法を創意工夫し主題の表現を追求している。 b:対象をよく観察し、感じ取ったよさや美しさを基に、主題を生成して、部分や全体との関係を考えて構図や構想を練っている。 重ね塗りをして色調を深めている。 c:形、立体感を表現でき、アクリル絵の具の特性を生かし、さまざまな表現技法を工夫して主題を表現することに取り組もうとしている。 【鑑賞】 b:作者の表現の意図、創意工夫、作品のよさや美しさなどを感じ取ろうとし、自身の作品への客観的視点が養えている。	ワークシート 取り組み状況 提出作品	下絵 提出作品 ワークシート 相互鑑賞カード	取り組み状況 振り返りシート
	文芸祭	【鑑賞】 ･12月に校内展示を行う。原則として、全員前期課題を展示する。 ･相互鑑賞	b:作者の意図や表現の工夫などに関心を持ち、その人独自のものとして尊重している。 表現のよさや効果的な工夫を感じ取り、それに対して自己の意見を述べることができる。		交流用紙	

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度